

真宗大谷派（東本願寺）天満別院

# 六字城

ROKUJIJO

2021/12/1

No.685

大阪市北区東天満 1-8-26  
06-6351-3535  
http://www.tenma-betsuin.jp  
代表者 輪番・武宮 信勝



天満別院 崇敬寺院巡り

後月山 圓立寺

## 告知

### すす払い同朋の会

左記の通り、来る新年に向けて、ご門徒の皆様へ年末すす払い奉仕のお願いを致します。皆様お誘い合わせのうえ、ご参加ください。

記



日時 12月24日(金) 9時30分  
場所 天満別院本堂  
服装 汚れても構わない服  
※昼食を用意していません

### 今月の伝道掲示板

こころは

蛇蝎じゃかつの

ごとくなり

『正像末和讃』

—親鸞聖人—

### 編集後記

とある記事に自分を褒めて行こうと書かれていました。失敗は挑戦した証拠・疲れたのは頑張った証拠・つまづくのは歩んだ証拠・怒るのは真剣だった証拠、大切なのは失敗のあとどうするかということ。年末になり一年を振り返った時に失敗したことがかり考えるのではなく見方や考え方を考えるだけで前に進むきっかけになると考えさせられました。

(I)

### 後月山 圓立寺

住職・越浦 龍成 氏

住所・大阪市鶴見区横堤2丁目6番11号

### 沿革

圓立寺（鶴見区横堤）は朝倉義景家中、谷野一白の孫、釋道受法師が越前の浦に道場を開基し、木佛を安置し圓満寺を建立したのが始まりである。その後第4世釋寿界の弟、釋大龍が鶴見区横堤に約400年前から継承されてきた道場を圓立寺として開基された。

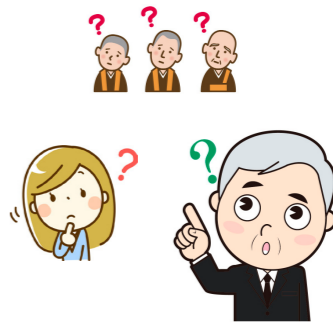
証如上人が記した『天文日記』には各地域の道場を中心とする門徒・同行を門徒衆と記載され、そのほとんどは地名を冠した門徒衆とされている。圓立寺は近江の流れを組む篤信の横堤門徒衆が道場を設立し、後に寺院として連綿と継承されてきている。圓立寺は大阪大空襲の被災を免れ、本堂の梁は400年前の梁が使われているとお聞きしています。

越浦住職は「地域の人口は増えているが核家族化が進みお寺との縁が薄くなっている、門徒も代替りして若い方が少ないが、お寺の掲示板を通りかかりに写真を撮ったり、小学生が掲示板をきっかけに声をかけてきてくれる。掲示板が縁となっている。大きな法座ではなくお茶会のような気軽に集まれる場を作っていききたい。圓立寺は横堤門徒衆の道場として大切に守ってきた歴史がある。その想いを引き継いでいきたい」と優しい笑顔で語っておられた。

また、越浦住職は大阪教区第12組の組長に就任されておられ、12組では門徒会講座・女性講座を開講しているが、今年度はコロナ禍の為開講出来ない状況が続いている。しかしオンライン、DVD、動画作の出版等、コロナ禍であるからこそ出来る教化活動をされています。

「帰命」ってなに？

帰命



答え

「帰命」とは、「正信偈」に「帰命無量寿如来（きみようむりようじゆ）により無量寿如来に帰命し」とあるように、阿弥陀仏からの呼び声であります。

「命」とは、したがうという「命」とは、いのちと仰せというすなわち帰命とは「いのちの言葉に出遇ってくれ」という呼び掛けであります。

以前、友人と居酒屋で呑んでおりますと隣の席で喧嘩が勃発しました。私は何のことやら分からず成り行きを見ていました。すると友人が「ちよつと待て！」と仲裁に入りま

喧嘩は、お店にも迷惑がかかるだけでなく他のお客様にも迷惑がかかることを見越し、友人は止めたのでしよう。喧嘩は、お互いの些細な意見の食い違いから大きくなるのでしよう。喧嘩の当事者の一人は、その後私達と一緒に話すことになり、心を落ち着け成り行きを話してくれました。最後には喧嘩を止めてくれたことを感謝しておりました。声が届いたということなのでしょう。

生活の中で自分の思いで生きていくと、自分の物差しを振り回して他を傷つけるだけでなく、自分をも傷つける。そんな私達に「帰命」に帰れ」と、はかる（量）物差しばかりではかりしれないもの（無量）を持つていない私達に、仏は「大丈夫か？どこに向かつて生きているのか？」と、声を掛け続けてくださっている、それが「帰命」なのではないでしょうか。

（第12組 圓滿寺 杉本潤）

報告

「御正忌報恩講」団体参拝

天満別院門徒会では、11月21日、午前7時半に21名の方々と別院を出発し、御正忌報恩講の音楽法要に団体参拝をいたしました。この日は天気もよく気持ちのいい一日で参拝後は、お買い物広場で皆さん買い物を楽しんでいた。

昼食は、京料理六盛にて手桶弁当を感染対策のもと、久々のご門徒の皆さんとの会食で楽しい時間を過ごした。

ご門徒さんからは、「音楽法要を初めて参拝できてよかった」「久しぶりの御本山に来てよかった」などの声が聞かれた。



御本山団体参拝の様子

昼食後は、宇治まで移動し平等院（ミュージアム鳳翔館）を見学しその後、平等院参道にてお土産などを買われた。

ご門徒の皆さんからは、「紅葉が綺麗で久しぶりの京都を満喫できました」などの声が聞かれた。今回は二年振りの団体参拝という事で初めてのの方も参加され、いつもの団体参拝がより楽しいものになりました。



平等院鳳凰堂を見学



京料理六盛にて昼食の様子

定例法話

11月24日、御講師に12組円照寺住職 桑田 和貴師をお迎えし、講題「私を照らし出してくれるもの」についてお話いただきました。

師からは、「私たちは自分にとって都合が悪いものは邪魔者とす。」「このことが問題と仰せられた。」「続いて真宗門徒でもある赤塚不二夫氏「天才バカボン」を引き合いに出され、思い通りにならないと言う所に苦が生じ、ありのままを受け入れ全てのことを前向きに受け止め生きる道ができたことを「これでいいのだ」とのフレーズは真宗念仏者の心と相応するものがあると述べられた。最後に参拝者の方々に円照寺で取れたあわせ柿をお土産にいただきました。



第12組円照寺住職 桑田 和貴師

別院陸屋根（屋上）防水工事 完了のお知らせ

10月6日より始まりました、別院屋上の防水工事は、足場を組み安全対策、近隣の騒音対策に充分考慮しつつ完了致しました。

東西の陸屋根の防水工事、特に西側は、空調関係の備品が多く苦慮されておりました。向後10数年は安心して如来の家（御本尊）を守護してくださることであります。

輪番雑感

宗祖「御正忌報恩講」に参拝して

武宮 信勝

先月21日、別院門徒会20数名の方々と2年ぶりに上山し御正忌報恩講に参拝させていただきました。コロナ感染の予断を許されない状況から制限を受けてか参拝者も満堂には程遠い感を感じないにしても、厳粛の内に法要が始まりました。曲の奏でる中、大谷暢裕御門首並びに新門（御子息）大谷裕さまが御出仕されるお姿を拝見した時、思わず胸が熱くなりました。約半世紀、本願寺問題で揺らぎ続

けた宗門がやっと本来の姿に帰れたのかと。

「真の念仏教団に立ちかえれ」と心血を注いだ、今は亡き諸先輩の顔が脳裏にのみがえってききました。分裂報恩講を余儀なくされ、山門前で座り込みをした事・富山県の城端別院に宿をとり井波別院瑞泉寺を死守したこと等が走馬灯の如く想い出され、諸先輩の憶いが私の合掌の手に段々と重なって重くなつていきました。ふと横を見ると先刻、我々に御挨拶された木越新宗務総長が特別な席ではなく、我々と一緒にの参拝席に同座され、一人静かに合掌されている。瞬時に涙が目頭に溢れてきました。大げさな言い方が許されるならば、ここ数十年ほぼ欠かさず毎年御正忌参拝している自分にとって、御門首・新門さまの御着座のお姿は、生涯忘れることのない縁となるであろう。

表白文に「：自らが確かなものであると思ひ込み、死を見ず、生き続けることを当然とし、それ故に不安を抱えて生きています。そういう自らのあり方を思い知らされました。おろかなことです。私たちのあり方は確かなものではあ

りません。しかし、いや、だからこそ、こうして今ここにあることが、あたりまえではなく、ありがたいことなのだと思ひ込まれます。：中略： 阿弥陀仏の光に自らの姿を照らされながら、すなわち御念仏の中で生活してゆきたいと、強く願います。……

釋修如（門首の法名） 御参拝の皆さん一人ひとりに、語りかけるように読み上げられた表白文。生活の中で念仏申すのではなく、御念仏の中で生活が営まれていくことの大切さを願われました。誠に有難いことです。

御本山を去る時に、境内に落ちていた金色に輝いた銀杏の葉を探し、いつもの事として数枚拾い上げ、ポケットにそっと押し込みました。田舎にいる坊守・孫たちへのお土産として。72年の齢を生きる自分にとって、今年が最後となるかもしれない宗祖の報恩講上山と思えば、次の詩が肌身に深く、また深く浸みこんでいきます。

この一年 悔いなしと 散る落ち葉かな